〔大江俊矩記〕文化四年十一月十八日乙卯、新嘗祭也、〇中略

一葱華輦內御前帷子撤之、可掛御後輦戸所哉、行事官相伺、其通申奉行處、被伺殿下後、不及其儀、自初有儲通宜旨被示、卽命行事官了、

件葱華輦帷、稱幌歟 御前御左右等三方有之、御後無之者也、依御後有輦戸也 寛政立后御再興之時、御前計被懸御簾、仍於御前者、御帷御簾等爲二重、御後御帷御簾共無之、故如此相伺由也、

〔延喜式三十六主殿〕御輿一腰綱。廿六條料、緋絁四疋四丈六尺、腰輿二丈五尺 心料、調布十二端四尺、腰輿一端八尺

〔西宮記臨時十〕行幸仰御綱事

乘輿出閤門之間、大將立闔外壇上 召大舍人二聲、大舍人稱唯、大將仰云、御綱張禮、大舍人同音稱唯、張御輿綱、今案□□之時、無上宣之詞、□神事不仰云々、大舍人候中隔、行路之間、左右大將立左右之〇一木無之字 御綱末、少將之後也、於古行幸指圖、左右大將、立御綱末、少將後、而近代皆立前、若有故可尋也、

〔娶入記〕一御こしのつな、女房ごしは、ひだりのながえのきつかけ、一ゑやくばかりのけて、かしつけにて、右のながえに、ひつときにとむるなり、

〔大江俊矩記〕文化四年十一月十八日乙卯、新嘗祭也、〇中略

一葱華輦御綱、御輿長張之事雖本儀、輿丁依少人數、密々卷付御綱、於轅四人共加輿丁奉舁度相願旨、官務行事官申立、卽申入奉行處、被伺殿下後、可爲其通被示、申渡官務畢、

〔娶入記〕よめ入の條々

一わたしやうは、御こしの右のながえかな物よりさき、兩の手をあをのけて、ながえをてのひらにのせて、うけとる人のかほを見る也、

〔大江俊矩記〕文化四年十一月十八日乙卯、新嘗祭也、〇中略 秉燭過雨尙不止、依之一統雨儀覺悟可致、尤御輿被用葱華輦旨被仰出、〇中略